

訳：上田悠奈（JPYA・日本ポーランド青少年協会）

Przełożyła Yūna Ueda (JPYA – Polsko-Japońskie Stowarzyszenie Młodzieży)

金色の宇宙人の伝説

21世紀初めのある暖かい6月の午後、私は同級生たちと競技場の近くの公園でポケモンを集めて楽しい時間を過ごしていました。すると突然、不自然に空が明るくなり、私たちに向かってとても大きな宇宙船が飛んできていることに気づき、とても驚きあっけにとられました。私たちは最初、逃げ出しました。しかし、好奇心に駆り出され、少し遠くからこのおかしな出来事の様子を伺っていました。宇宙船の着陸で火花が飛び散り、十数本の木が突然燃えました。同級生たちは皆怖くなり、逃げてしまいましたが、私はたまたま近くで何もかもを見たい思いに駆られました。しばらくして、宇宙船の扉が開き、7人の宇宙からの異星人が現れました。彼らは中くらいの身長でターコイズ色の皮膚、頭のとっぺんには少しの紺色の髪の毛、キャベツの葉のような不自然に大きな耳を持っていました。また、奇妙なことに彼らの手は短く、指は4本だけでした。目はとても大きく、鋭く、キラキラと輝いていて、思わず私は気を取られてしまいました。彼らの中の1人は、ピンクと白の水玉模様の大きな卵を抱えていました。そして、彼は持ってきた石を木の間に置きました。私が気がつく前に、宇宙人が私に近づいてきて、彼らの中のリーダーの1人が私に話すことを要求しました。その間私の同級生たちはこの出来事を木の後ろから眺めていました。彼は地球語の翻訳機を持っており、話を聞くと、彼らは平和な目的で地球に来たと言いました。その目的とは、彼らの惑星で生命の維持に役立つ一連の化学実験を行うことでした。もちろん、全ての人の安全と、いらない混乱を招かないように、全ての任務は秘密にしなければいけませんでした。宇宙人たちが彼らの星、ビバス星に運ぶ予定であるいくつかの動植物の遺伝暗号を含む情報を集めるには6ヶ月が必要でした。その間、彼らの体は人工でできた人間の皮膚で覆い、完全に人間にカモフラージュして、ゴレニユフ市の住民としていくつかの職業につきました。そのうちの1人である緑色のビバス人は驚異的な外科の技術を持つ、奇跡の医者になりました。数十回の手術のゆえに何人かのゴレニユフの住人は車椅子の状態から歩けるようになりました。一方で青色のビバス人は100メートル走の世界チャンピオンになり、黄色のビバス人は、最大1メートルもの人参を収穫し、人参栽培の記録保持者になりました。伝説によると、実際には金色のビバス人1人が黄色、青色、緑色のビバス人3人に変形していたと言われています。もちろん、彼が行なった全ての善行は、彼の不思議な力によるものでした。自治体のニュースによると、金色のビバス人には念力でクローンを作れる能力があったと言われています。この新しく来たビバス人もまた、ゴレニユフの人々のためだけに並外れた才能を使うつもりだったので、人間のようにとてもいいビバス人だとわかりました。他のピンク、赤、白、紫色のビバス人はお手伝いとして、密かに情報を集めて分析をしていました。彼らの中の1人はビバス星から持ってきた卵を彼の家保管していました。1ヶ月後には、ビバスの恐竜が生まれましたが、その後、森に密かに散歩をしに行き、逃げてしま

いました。しばらくして、キノコ狩りに来たある人がパイロット山の 雑木林で生き物の死体を見つけました。今日まで住民の誰もがこの生き物が何だったか、どうやってこの生き物がここに来たのかを知るよしありません。これらの物語のどれもが今日の優れた SNS のおかげで、ポーランド国民の注意を引きました。短距離や長距離のランナーたちは国内からでなく、外国からも新たな世界チャンピオンである青色のビバス人と一緒に練習するためにゴレニェフに来ました。その後も練習をするたびに、市民競技場のランニングコースがだんだん青くなって行くことが魔法のようだったので、ますます多くのランナーたちがゴレニェフにきました。その原因がビバス星のビバス人の青い汗であることは知る人ぞ知ることでありましょう。ビバス人がゴレニェフにいる間、なんとゴレニェフを訪れる観光客の数は5倍にもなりました。それから半年後、ビバス人が私と私が仲のいい2人の友達に対して、彼らはすでに必要だった動植物の遺伝暗号を手に入れて、使命が終わったことを告げました。ということは、彼らはもうすぐ彼らのビバス星に帰るのです。彼らが帰った後、奇跡の医者、世界チャンピオンのランナー、記録保持する農家は一晩でゴレニェフから消えてしまいました。とても信じがたいことですが、新しく来たビバス星のビバス人たちはその3人は休暇中に飛行機事故で死んでしまったという作り話をしてなんとか住民たちを信じさせました。しかしこのすべてが本当なののでしょうか？誰かが私にこの話を伝えたのか、それともこのすべてが私の夢だったのか……。いや、ちょっと待てよ...、競技場には青いランニングコースがあるし、公園には石が立っている、しかもシュコルナ13番通りにある恐竜の像は不気味だ...。とにかく、これら全ての伝説に敬意を示すために、ゴレニェフ市は未来の世代のために記念碑を作ることにしました。ビバス人の宇宙船を表すロケットは、Plantyの遊び場に置かれています。競技場近くの公園のライトは、宇宙船の着陸の瞬間を再現していて、ゴレニェフの人々の生活にいい影響を与えた金色のビバス人の伝説を思い出させる感動的なものとなっています。